

奈良県立磯城野高等学校

Flowers

高校生ボランティア・アワード
2020

「私たちにできるSDGs」

活動概要

私たちは「花で地域とのつながりを作りたい」という思いで集まり、交流活動を行っていましたが、今年度は新型コロナウイルスの影響で交流活動が行えなくなってしまいました。そこで交流活動でつながりを持つようになった企業の力を借り、新たにSDGsの取り組みを始めました。

・農園芸での麻袋利用

ハウス食品株式会社（奈良工場）から、産業廃棄物である麻袋の活用を依頼され、麻袋栽培を行っています。はじめは、香りがきつく校内での置き場所に苦労しました。コンクリートの上に置いて土がこぼれないように二重にするなど工夫しました。また、土の上に置いて栽培を行い、麻袋が土に還るまでの日数を計測しています。県緑化推進協会から河川堤防の緑化に利用できるのではと提案を受けています。

・酒粕を用いた柿の脱渋

知り合いの柿農家に手伝いに行った際、渋柿の脱渋の話聞き、酒粕で脱渋することになりました。もともと梅乃宿酒造株式会社から酒粕を提供して頂いていたので、学校に戻り、すぐに酒粕で脱渋を行いました。酒粕脱渋は見事、成功し、農家への普及を目指します。果樹を扱うことはみんな初めてだったので新鮮な気持ちになりました。

・ミミズ糞土を用いた栽培

私たちは、ミミズを用いた栽培試験を行っています。その関係で地元のワキ製薬株式会社のミミズ養殖場を見学することがあり、ここでミミズ養殖の際に出るミミズ糞土の利用に困っていることを聞きました。そこでミミズ糞土を用いた栽培を行うことにしました。ミミズ糞土は、栽培に使う前に手作業で一つずつミミズの卵包を取り除いています。専門家によると養殖場のミミズは外来種だろうということで、生物多様性の保全にも配慮することにしました。ミミズ糞土での栽培は順調です。問題もないようですので、すぐに普及できます。

・地域の人たちとの交流（昨年度からの継続）

昨年度から継続し交流活動も行っています。田原本町多地区の「大とんど」では、子ども会の子どもたちと一緒にイベントの手伝いをしました。同じ町内の伝統行事である「大とんど」のを知ることができてたいへんよかったです。また、学校で育てた花・野菜の販売も行い、お客様から花を通し笑顔になれたという言葉がたくさんいただきました。

また田原本町の体験作文発表会でも発表を行いました。この作文発表会に参加していた、地域の幼稚園や小学校の方々から交流活動について声をかけていただきました。新型コロナウイルスの影響も多く受けていますが、限られた環境の中で行える交流活動を続けています。



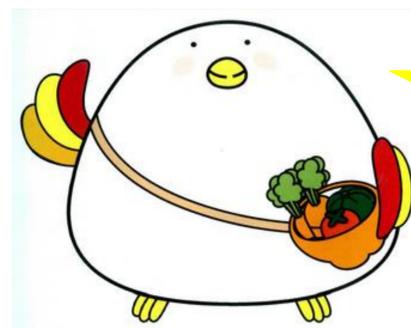
「フラワー&エコスマイル」

活動の目的・志

草花を通して地域の人と交流を深めたい。そんな気持ちから始めています。

地域のイベントに参加した時、私たちの学校で育てた花をたくさん買っていただき草花を通して、交流することができました。私たちが学校で心を込めて栽培した草花を利用して、地域の方々との交流を継続したいと考えていました。しかし、新型コロナウイルスの影響で交流活動ができなくなりました。そこで、交流活動で得た地域の人との関わり生かし、SDGsにつながる活動を新たに始めました。交流活動でお世話になった地域の方に草花+αで貢献できるように活動を行っています。

私たちは、新型コロナが収まれば「私たちにできるSDGs」の実現を目指し、地域への普及活動をしたいと考えています。まずは、今できることを一つ一つ取り組むことから始めています。



磯城野高校
マスコットキャラクター
「いろどりん」

「交流活動→企業廃棄物の利用へ」新プロジェクト始動！活動の詳細（実施内容/成果・実績など）

課題探し

私たちは「花で地域とのつながりを作りたい」という思いで集まり、チームを結成して2年が過ぎたばかりです。思いを実現するために、地域のイベントに参加し、地域の方たちと交流する中で課題を見つけました。しかし、今年度は新型コロナウイルスの影響で交流活動ができなくなり、SDGsの活動に力を入れることにしました。

私たちは、交流を始めて間もない頃から、地元の企業から廃棄物の利用について相談を受けていました。新型コロナウイルスの影響で交流ができなくなってしまったので、廃棄物の利用について考えることにしました。

新型コロナウイルスの影響で見学に行けないところもありましたが、まずはどのように廃棄物が出てくるのか、調べてきました。私たちにできることは、農園芸での企業廃棄物の利用です。まずは校内で試験を行うことにしました。

2 酒粕を用いた柿の脱渋

知り合いの柿農家に手伝いに行った際、渋柿の脱渋の話聞きました。脱渋はアルコールや炭酸ガスで行っているのですが、ここで、ふと思いつきました。以前からミミズ関係の試験で梅乃宿酒造株式会社から酒粕を頂いています。頂いた時に酒粕の多くは廃棄処分をしていると話を聞きました。酒粕にはアルコールが含まれています。そこで、酒粕を用いて脱渋することを思いつきました。

酒粕脱渋は、いわゆる樹上脱渋という方法で行います。実に被せる袋の中に酒粕を入れるのですが、この時、粘土状の酒粕を塊にしなければならないので少し手間がかかります。しかし、酒粕で脱渋を行った結果、従来の方法で脱渋したものより酒粕で脱渋した方が実が柔らかく、おいしいという意見をたくさんいただきました。今後も、試験を繰り返し、プロである農家の方に試食して頂き、広めていきたいと考えています。

3 ミミズ糞土を用いた栽培

私たちは、ミミズを用いた栽培試験を行っています。自然農の考え方の一部でも施設園芸に導入しようと思っています。しかし、ミミズの栽培試験を行うためには、同一種のミミズがたくさん必要ですので、飼育するのが一番です。そこで地元のワキ製薬株式会社のミミズ養殖場を見学に行きました。私たちが飼育しようとしているミミズはフトミミズ科で、養殖場のミミズはツリミミズ科と科は違いますが、参考になればと思い伺いました。養殖場で話を伺っているとミミズ養殖の際に出るミミズ糞土の利用に困っているという話が出てきました。そこでミミズ糞土を用いた栽培を行うことにしました。私たちが目指している自然農の考え方にも通じます。今は、まだ栽培試験中で結果は出てませんが、順調に成長しています。今後は、ミミズ糞土栽培を農家の方に普及していきたいと考えています。

4 麻袋栽培

地域交流活動の一つ、花いっぱい運動でお世話になっている緑化推進協会から、ハウス食品株式会社奈良工場が産業廃棄物である麻袋の処理に困っていることを聞きました。お伺いし、詳しく話を聞きたかったのですが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のこともあり、代わりに顧問の先生に行ってくださいました。麻袋は農園芸分野では、マルチ代わりに使われていることを聞きました。そこで私たちは、花いっぱい運動での利用を考え、マルチではなく袋栽培に使うことにしました。麻袋はカレーの香辛料が入っていたこともあり、臭いがきつく、使用をためらいそうになりましたが、袋栽培で使って1週間も経つと臭いは気にならなくなることが分かりました。ただ、約2週間程度で袋の底が破れることがわかりました。思っていたよりも麻袋が土に還るのが早いことから、河川堤防等の法面緑化に使うことを考え、通常の袋栽培と異なり、袋を寝かせて使うようにしています。現在、校内で法面緑化を想定した試験を行っています。良い結果が出そうです。

もちろん、校内にも花を植えた麻袋を設置し、校内緑化を行っています。他の生徒からも評判がよく、今後も行ってほしいという声をいただきました。

校内花いっぱい運動にも力を入れています。

今年度は、外での活動が減ってしまいましたので、その分、校内の活動を増やしています。昨年度までのプランター設置に加え、今年度は校舎内に花瓶を置くようにしています。

花とエコで笑顔いっぱい

新型コロナ感染拡大防止のため、交流活動がほとんどできなくなってしまい、私たちの活動は一旦、仕切り直しとなってしまいましたが、昨年度までのつながりから、SDGsにつながる新たな活動を始めることができました。交流はほとんどできなくなってしまいましたが、新たな活動を始めることができたのは、交流活動でつながることのできた多くの方々のおかげです。感謝いたします。

新型コロナがおさまれば、今までの「花」に加え、「エコ」も合わせて、多くの方々に笑顔を増やしていきます。



Flowers
奈良県立磯城野高等学校
〒636-0300 奈良県磯城郡田原本町258
TEL 0744-32-2281 FAX 0744-327265

私たちのもう一つの取り組み
Earthworm Project
施設園芸に自然農の要素を取り込むための研究をしています。こちらもSDGsにつながる取組みです。